

これからパンローリングの  
投資本を読む人へ

—— 万年初級者の残念な思考と姿勢 ——

塩見努

 PanRolling Library

## はじめに

数ある投資本のなかから、本書を手にとつていただき、ありがとうございます。私は関西を中心に、資産運用や保険についての一般的な相談業務をしているFP（ファイナンシャル・プランナー）です。また、資格の学校や大学、金融機関、一般企業で、FP養成講座の講師をしています。

FP養成講座で私の担当している科目は、金融資産の運用ではなく、ほとんどが保険関連です。昔から株式投資に興味があり、かつては証券会社の営業部に勤務した経験もあります。また、現在は神戸市にある投資顧問会社で個人投資家向けサービスの手伝いをしています。しかし、金融に関する講義を依頼されても、めったにお引き受けしたことはありません。

なぜなら、机上の理論や知識が、現実の資産運用や資産形成にどれだけ役立つかと考えると、大きなギャップを感じてしまうからです（試験対策だと割り切ればよいのでしょうか……）。

本書に関する最新の情報はこちらのURLをご覧ください。

<http://www.panrolling.com/books/pl/pl41.html>

### 【免責事項】

- ※本書に基づく行為の結果発生した障害、損失などについて著者および出版社は一切の責任を負いません。
- ※本書に記載されているURLなどは予告なく変更される場合があります。
- ※本書に記載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標および登録商標です。

資産形成が目的ならば、FP養成講座で教わるような理論よりも、個人が実践的に勉強をして「自分だけの投資スタイル」を身につけたほうがよいと考えます。

そして、その方向づけこそ、本書最大のテーマです。本書の後半では、自分なりの人生観や人生計画から、自分だけの投資スタイルをどのように切り開き、成長させていくかについて、私なりの考え方をご提案したいと思います。

自分だけの投資スタイルを切り開くのに最も望ましい方法は、投資の成功者に直接指導してもらい、「自分なりの投資の中核」を養成することです。

ただし、それは「秘伝」の手法をこっそり教えてもらえるからではありません。なぜなら、投資家を成功に導く手法は、けっしてひとつだけでなく、多種多様だからです。例えば、売買の間隔ひとつとっても、数秒から数年まで、いろいろとあります。また、たとえ同じ手法を使っているとしても、投資家の好みや性格によって、結果は大きく異なるものなのです。

ところが「投資に対する思考と姿勢」に関しては、大多数の成功者だけでなく、ほとんどの失敗者に共通するところが、非常に多く見られます。実をいうと、投資というものは、少なくとも、成功者、そして失敗者に見られる投資に対する思考と姿勢を知らなければ、最終的に損をするようにできているのです。

このことを成功者は知っています。だからこそ、初心者が経験的に「投資に向いた思考と姿勢」を理解し、「自分なりの投資の中核」を形成できるよう、仕向けてくれるのです。

しかし、成功者は全投資家人口の10%もいません。また多くは、自分が投資で成功していると公言しません（その理由は本文で説明します）。

では、どうしたら「成功者の思考と姿勢」を学べるのでしょうか。私の回答は、ありきたりですが「本をたくさん読むこと」です。

本書の前半は、私がこれまでさまざまな本を読み、自分で経験を重ねるなかで、私なりに解釈してきたことをまとめたものです。それは、何度となく投資で失敗と挫折を重ねてきた私自身が、身にしみて感じ、身体で覚えてきたことです。このことを投資を始める前に、ぜひとも知っておいてもらえればと思います。

本書は、これから投資を始めようとする方や、投資で迷ったり悩んだりしている方のために書きました。FPとして実際に多くの一般投資家の相談に乗ってきた経験から、こうした方には、くどいくらいに指摘するのが、ちょうどよいと考えています。

そのため、本書では似たようなことが何度も繰り返し返されていると感じるかもしれませんが。そして、説教臭く感じるかもしれませんが。しかしそれは、これまで私が身をもって感じてきたことを分かかってほしいという強い思いが込められているからだと、ご理解いただければ幸いです。

本書が「知ってさえいれば免れることができた」という次元での失敗を回避し、自分だけの投資スタイルを築き上げ、さらに高いレベルで投資に挑戦し、より幸せな人生を送るための一助となれば、筆者として、これほどうれしいことはありません。

塩見努

## 【目次】

はじめに……………1

### 第1章 投資の勉強をしよう！

最低限の常識……………14
答えだけ求めても無駄……………16
相場は3K……………20
脳ポートフォリオの構築……………23
投資の熟練度……………29
万年初級者の典型……………31
まずは自覚から……………36
中級に進むためには……………40
天才でさえ努力している……………42

投資本の読み方……………	46
情報商材……………	51
修行期間……………	55
真贋を見抜くのは自分……………	59

## 第2章 売買ルールをつくらう！

相場の分析法……………	66
ファンダメンタル分析……………	67
材料に振り回されるな……………	70
テクニカル分析……………	71
相場の局面……………	75
パターン分析……………	81
勝率……………	88

## 第3章 投資家心理と資金管理

ペイオフレシオ……………	90
期待値……………	94
短期売買の種類……………	99
私の売買方針……………	102
大数の法則……………	105
売買に時間をかけない……………	114
なぜ入口ばかりに注目するのか……………	118
投資は商売……………	120
ワインから投資を考える……………	125
見えているものが違う……………	129
長期的に安定した成績……………	133

大きな目標からその場での戦い方を逆算する……136

ゾーン……139

潜在意識……142

初級者は群れを好む……144

普通に行動すると損大利小……146

感情のサイクル……148

リファレンスポイント……152

初頭効果と親近効果……154

心の会計……158

損切りの効用……159

損切りの思考……163

ナンピンと分割売買……167

利食いの目安……169

復活は大変……171

投資を長期で継続するために……177

自分の出番を待つ……181

職人氣質……188

成功者の性格……192

## 第4章 人生計画と投資スタイル

人生計画……196

アセットアロケーション……199

修行期間と投資期間……201

積極投資に適当な額……205

ポートフォリオ……208

ポートフォリオと投資スタイル……213

ポートフォリオとヘッジファンド……216

空売り……224



## 第1章 投資の勉強をしよう！



戦術の分散……………	226
比較整理……………	235
相性の良い投資手法と金融商品……………	240
投資を学ぶのに適した金融商品……………	243
投資信託の注意点……………	247
分配型の投資信託に注意……………	258
積立投資……………	261
積立貯蓄……………	267
個人年金保険……………	268
株主優待……………	270
これから投資の修行を始める前に……………	275

さくらに……………	277
付録 私にとっての投資金言集……………	282

## 最低限の常識

目の前にある横断歩道の信号が赤なのに、そのまま左右安全を確認せずに渡ろうとすれば、自動車にはねられる確率は高いといえます。

「何を当たり前のことと」と思うかもしれませんが、しかし、実際のところ、投資の世界では、横断歩道や信号や自動車といった最低限の常識も知らずに足を踏み入れ、結果的に相場に跳ね飛ばされてしまう人が後を絶たないのです。

「最低限の常識」を身につけるには、単に本を読んで知っただけで十分といえません。自分で実際にやってみて、経験を重ねて知識を身につける「修行期間」が必要です。脳外科の名医が書いた実践書を読んだからといって、すぐに脳腫瘍の手術ができるわけではないのと似ています。投資はそれだけ高度な世界なのです。

しかし、いたずらに経験を重ねても意味がありません。見知らぬ森の中を何の準備もなく漠然とさまよい続けながら、その歩き方を修得していけるほど、投資の世界は易しく（優しく）ないからです。

フラフラ歩いていたら、あつという間に身包みをはがされてしまうでしょう。あるいは牛や熊のような猛獣に襲われるかもしれません。常識さえ知っていれば避けられたかもしれないところで、多くの人が大事なおカネを失っているのです。

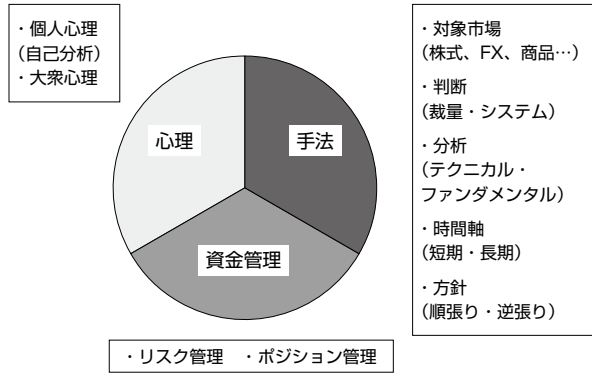
自分では投資は無理だと「投資顧問」「ニュースレター配信業者」「売買シグナル配信業者」「カリスマ投資家」と呼ばれる「ガイド」に多額のおカネを払って任せようとする人がいます。しかし、百戦錬磨のガイドでさえ、実際にはどうなるかわからないのが、この世界です。しかも、ガイドが皆、優秀で誠実な人ばかりとはかぎりません。

投資の世界を生き残っていくためにも、また、ぼつたくられずに自分に合ったガイドを見る目を養うためにも、いずれにせよ、まずは「相場にはねられたら大ケガをする」ぐらいの常識を知っておく必要があるのです。

投資初心者ほど、パツと答えをそっくりまねても、勝ち続けるのは難しいでしょう。投資が知るかぎり、その答えをそっくりまねても、勝ち続けるのは難しいでしょう。投資で簡単に勝ち続ける方法はなく、最終的に自分で道を切り開いていかなければな



図表 1.1 脳ポートフォリオ



らないからです。

「投資力」をつけるには修行期間が必要であり、じっくり腰を据えて取り組まなければなりません。投資本はそのためのヒントです。これも投資の常識のひとつといえます。

本章では、初心者に見られがちな「非常識」と、投資を学ぶにあたっての「常識」について、いくつかご紹介したいと思います。

答えだけ求めても無駄

投資で長期的に勝つためには「心理」「手法」「資金管理」の3つを自力で構築しなければなりません。「心・技・体」とも表現できるでしょう。

私は、この3つをまとめて「脳ポートフォリオ」と呼んでいます。これこそ投資の「中核」であり、どれが欠けても勝ち残ることは不可能です(図表1-1)。

なお、ポートフォリオとは、お互いが補完しあうことで安定性と収益性のバラ

ンスをとろうとする組み合わせのことで、詳しくは第4章で紹介します。

さて、精神科医であり個人投資家であるアレクサンダー・エルダーが著した『投資苑』(パンローリング)では、この3つの要素が具体的に紹介されています。そして私を含め、世界中の多くの人が、まるで自分が見つけたかのように、この考え方をバクっています。

初心者は得てして「どのようにしたら儲かるのか?」「どのタイミングでどの銘柄を買えば儲かるか?」と手法に走りがちです。私も『投資苑』を読むまではそうでした。

さらに多くの人は、成功者に教えてもらった手法をまねれば、自分も成功者になれると思っています。なかには、成功者に任せれば絶対に儲かると思い込んでいる人もいます。言い換えれば「答え」だけを求めているのです。

しかし、答えだけを求めているも、長期的に資産を増やすことはできません。例えば、ある居酒屋チェーンで成功している経営手法が、別の居酒屋でも成功するとはかぎらないように、だれにでも合った絶対的な答えなど存在しないからです。

今では「成功者」と呼ばれる投資家も、最初は素人でした。しかし、大多数の敗者と違うのは、何度かの挫折を乗り越え、試行錯誤を繰り返しながら「自分なり」の脳ポートフォリオを構築していったことです。

例えば「どこの市場や金融商品を選ぶか？」「ファンダメンタル分析やテクニカル分析をどのように利用するか（しないか）？」「売買期間は長期か、中期か、短期か？」「売買方針は順張りか、逆張りか？」「売買ルールの実行はシステムか、裁量か？」……など、自分の手法を自分のライフスタイルに合わせて、具体的に取り入れていきます。

ただし、そうした手法を最大限に生かすためには心理と資金管理が不可欠です。例えば、自分の手法がブレないためには精神面の強さが求められますし、リスク許容度を決定するためには自分の性格を踏まえておかなければなりません（具体的には、第2章と第3章で紹介していきます）。

株式やFX（外国為替証拠金取引）投資での最終的な勝者は、10%程度といわれています。ということは、逆に90%程度の大半が、資産を増やそうと投資を始めたものの、結果的に資産を減らしているわけです。

だれも敗者にはなりたくないはずなのに、多くの人が敗者になっているという事実があります。敗者にならないためには、何が勝者と敗者を分けるのかということを考え、投資を始めなければなりません。

多くの人は何の根拠もなく、自分には特別な才能があるという思い込みから、あるいはだれか他人の手を借りることで、10%の勝ち組に入れると思います。

しかし、私を知るかぎり、努力しない人間に結果は出ていません。だからこそ、努力した勝者への報酬は大きいのです。

## 相場は3K

少し前まで「相場」といえば、3K＝「怖い」「困難」「危険」のイメージがありました。

そのイメージ作りに一役買ったのが、証券会社や商品先物会社の悪徳営業の存在でしょう。「営業マンの口車に乗って家財一式を失った」といったような話は、枚挙に暇がありません。

悪徳営業の目的は、手数料稼ぎです。「10対90の法則」を経験的に分かっているので、お客さんの長続きなど最初から期待していません。したがって、いかにお客さんを増やすか、あるいは、いかにけしかけて、のめりこんでもらうかが目的達成の手段となります。

もちろん、こうした悪徳営業は業界のごく一部です（全くないわけでもありませんが）。また、最近では営業さんを介さず、インターネットを介して、自分本位に売買することが主流となりました。信用取引やFXの口座もずいぶん簡単な審

査で開設できるようになり、プロ並みの発注環境や、詳細かつ充実した情報が容易に入手可能です。

株式やFXのネット取引で「×億円儲けた」という個人投資家が、雑誌や書籍に登場しています。近所で見かけるような普通のお兄ちゃん、お姉ちゃんが「一見、いとも簡単に、数カ月のトレードで数十万円を数億円にしているのです。「自分にもできるかも？」と思うのは無理ありません。こうして、最近では「相場は3K」というイメージが、ずいぶん薄れてきたように思います。

しかし、簡単に投資ができるようになったからといって、簡単に儲けられるようになっただけではありません。むしろ、簡単に損をするようになりました。例えばオンラインゲームや携帯ゲームのように気軽に仕掛けエントリーをしてしまい、すぐに損失を膨らましてしまうような投資家が増えているのです。

10対90の法則は、今も昔も変わりません。メディアはあくまで、ごく一部の勝者のみを取り上げ、勝者がどれだけ簡単に儲けたかを強調します。一方、90%の敗者は取り上げません。多くの敗者が取材を断るでしょうし、記事も否定的になりがち

で楽しくないので、苦勞のわりには利益にならないからです。

雑誌であれば、広告主である企業の営業活動に貢献しなければなりません。書籍であれば、一人でも多くの初心者（投資家の大多数を占める）の目に留まるタイトルにして、まずは手にとってもらう必要があります。

取引自体は買うか売るかの単純な行為なので、何も研究をしなくても、ただ運が良いだけで一瞬にして大儲けできる可能性があるのも相場の魅力です。そして「魔力」でもありません。

もちろん、私はお目にかかったことがありませんが、何も知らずに感覚による投資だけで成功を続けている「天才」相場師や「ラッキー」投資家もいるかもしれません。しかし、自分もそうである根拠は、どこにもありません。

「自分には特別な才能がある」「自分は仕事も勉強も人よりも優れているので、相場でも勝者になれる」と考え、とりあえず始めてしまう方もいるようです。すぐに損を出して、そのような考えを後悔するぐらいならまだしも、たまたま分かりますい相場」に出くわしたために大金を稼いでしまったら大変です。

相場には、比較的易しいときもあれば、比較的難しいときもあります。易しい相場で自分の実力を過信してしまい、難しくなった相場で稼いだおカネ以上に損をさせられる人は、昔から後を絶たないのです。遅かれ早かれ「スランプ」に陥り、そこで悔い改めないかぎりは、一発屋で終わります。

**相場は「怖い」「困難」「危険」なのです。だからこそ、乗り越えたときの恩恵は大きいのです。**相場の恐さ、難しさ、危うさについて、経験と知識を蓄積していく過程で、常に肝に銘じておく必要があります。

## 脳ポートフォリオの構築

脳ポートフォリオは、知識と経験を糧にしながら、長期的に自力で構築していきます。株式やFXの本を1〜2冊読んだ程度で、簡単に構築できるほど、生易しいものではありません。

最近では、証券会社のセミナーが充実してきました。また、初心者向けの雑誌や

情報サイトがいくつも存在しています。株式、FX、投資信託など、金融商品の基本的仕組みや特徴、注文の出し方を知るのであれば、これらの情報源で十分でしょう。

ただし、営業的に都合の悪い情報は明示されにくいのも常識というものですので、いくつか見比べることをおすすめします。その情報の発信者がどこに所属しており、何の目的で情報を発信し、どこから収益を得ているのか知っておくのも重要といえるでしょう。

また、こうした情報源から分かるのは、あくまで「試合の基本規則」や指標の簡単な使い方だけです。それだけで勝てるようになるわけではありません。

野球でいえば、公認規則やバットの振り方を知っている程度です。全く試合に出た経験がないのに、いきなりプロの投手が投げる球を打とうとしても、三球三振でアウトになるだけでしょう。もちろん、なぜアウトになったか分かるだけでは、十分ではありません。アウトにならず出塁するためにはどうしたらよいか、自分で考えなければなりません。

先ほど、投資では心理、手法、資金管理のどれかひとつが欠けても長期的な勝利は不可能と述べました。

書店に行くとも一目瞭然ですが、投資関連書籍で圧倒的に多くを占めているのは手法に関する本です。資金管理や心理を主題とする書籍は、ほとんどありません。

しかし、投資の経験を重ねていくほどに重要になってくるのは、心理です。そして、この心理を本当に理解していけば、資金管理（資産を効率的に増やすための）の工夫が重要となってきます。

個人投資家の圧倒的多数を占めるのが「初級」の人たちです。得てして初級投資家は「答えが書いてありそうな本」「まねすれば簡単に儲けられる方法を分かりやすく書いてありそうな本」を探します。「〇〇万円が×億円になる投資法！」とか「簡単に儲かるFX」といったタイトルの本です。

ですから商売上、書店はそうした本を目立つところに置いて当然ですし、出版社もそういった本を出します。一方、心理や資金管理といった本は、初級者のニーズがありません。売れ行きが地味なため、書店棚の隅へと追いやられますし、多くは

出版されません。

別に、すべての「簡単に儲かる……」というタイトルの本がうそをついているとは思いません。営業方針でそのようなタイトルにならざるを得なかった可能性もあります。実際、私自身も何冊か、そのような名前の本からヒントを得ました。

また、書店や出版社を批判しているわけでもありません。売れなければ、次の本を出せないのですから。

ただ「資金管理」や「心理」の重要性を経験的に気づくどころか、それを知る前に相場から撤退してしまう人が多く、そのため、これらの分野が注目されないのが残念なのです。

私は、FP（ファイナンシャルプランナー）養成講座の講師をしています。また保険会社や証券会社に勤めて個人営業をしていた経験があります。ですから、これまで特にそういった「投資の常識」に触れる機会がなかった方たちの持つ金融知識がどれくらいなのかは、何となく分かっているつもりです。

金銭教育を嫌う日本では、金融や税金に対する理解は十分といえないのが現状です。その方たちにいきなり「公的年金で足りない分は自己責任で運用しなさい」とか「確定拠出型年金で運用できますよ」などといっても、一体どれくらいの人が、きちんと長所と短所を理解して実践できるのでしょうか。

先日、同級生からこんな質問を受けました。

「会社が確定拠出型年金を導入したのだけど、どれに投資したらいいの？」

おそらく、彼は「この商品にこの割合で投資するのいいよ」という簡潔な答えを教えてほしかったのでしよう。しかし、投資の世界に1+1=2のように絶対的な正解はありません。それが常識です。

きちんとした金融教育を受けていない人たちに、いきなり確定拠出型年金制度を押しつけるのもどうかと思います。しかし、現状がそうである以上、自分の身は自分で守る必要があるのです。投資や資産運用に、自力で前向きに取り組む必要があります。

私の経験上、脳ポットフォリオを構築するためには、少なくとも3～5年程度の「修行期間」が必要です。私が、わずかながら資産の増えるような力を自覚しだし

たのは、投資を始めて3年目を過ぎてからでした。300回以上の売買を経験した後です。

投資で資産を増やすことは、けっして簡単なことではありません。良い時期もありますが、悪い時期もあります。重要なことは、負けたらすぐに退場を迫られるような方法ではなく、長期的に継続できるような仕組みを作り、好調期に資産を少しでも増やし、逆境期に生き残っていける力を身につけることです。

プロ野球入りや甲子園を目指している高校球児も、毎日キャッチボールや素振りを繰り返しています。周りから見ると、その姿はいつも同じに見えるかもしれませんが。しかし、問題意識を持ち続けられ、毎日の繰り返しの中で新しい発見があるものです。毎日の練習を継続し、何度も練習試合などの実践経験を積んで、実力を蓄えることで結果を出していきます。

**投資も同じです。勉強、研究、実践経験を積み重ねていくうちに新しい発見があり、それが自分だけの脳ポートフォリオの構築につながっていきます。そして勝者へと少しずつ近づいていくのです。**

## 投資の熟練度

ある日突然、投資が上手になることはありません。ウォーレン・バフェットやジョージ・ソロスといった大投資家も最初は初心者だったのです。投資家を「投資の熟練度」で分類すると、次の3つに分けることができます(図表1・2)。

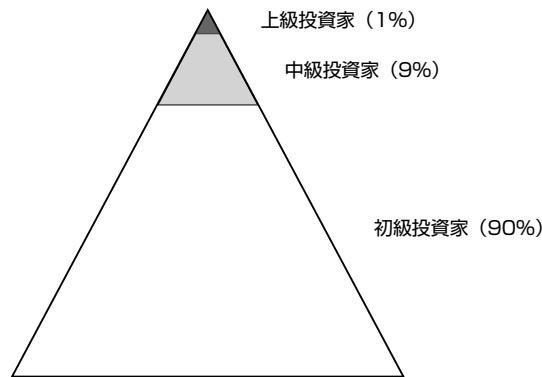
### 上級投資家

投資歴が長く、長期的に資産を増やし、すでに投資目標を何度も達成しており、これからも勝ち続けていくレベルです。このレベルの投資家は自分の脳ポートフォリオに自信を持つ一方で、相場の難しさを知っており、取り組む姿勢は非常に謙虚です。

### 中級投資家

自分なりの脳ポートフォリオを築き上げつつあり、少しずつ資産を増やすこと

図表 1.2 投資家のピラミッド



ができていれるレベルです。このレベルの投資家は、少なくとも5年以上の売買経験があり、短期売買の投資家であれば、500回以上の売買経験があります。相場本は50冊以上読んでいます。自分のやりたいことが分かっており、情報もきっちり精査できます。おごったり、気を抜いたりしたら、相場にやられることは経験的に身にしみています。上級者のすごさが分かっており、初級者の問題点も分かっていきます。

### 初級投資家

初心者、未経験者は、まずここからス

タートすることになります。常に新しい参加者がいる一方で、同じくらいの脱落者がいます。

また、脱落しないまでも、多くは中級に進むことなく、そのまま投資家人生を終えます。3〜5年たっても中級者にならない「万年初級者」は概して研究不足か、本気でないか、性格的に向いてないか、才能がないか、自分勝手か、投資の目的が資産運用とは違うところにあります。

### 万年初級者の典型

万年初級者の典型に「自分勝手」な人がいます。要は、わがままな人です。

まず自分が初級者であること自体、分かっていますし、けっして認めません。

中級者の存在も知らず、「自分はいつの日か大投資家（上級者）になるんだ」という夢があります。

夢を持つことは非常に重要です。しかしそれは、自分の理想と投資目標を実現し



ようと本気になって、長い修行期間を乗り切るエネルギーを作り出すために必要なのであり、知識と経験に裏づけられた「根拠」のない、妄想の夢物語では、意味がありません。

相場自慢がいくつもあり、相場を知っていると豪語するわりには、全く資産が増えていない……どころか、追加した資金さえ溶かしています。ところが「結果が出ないのは〇〇が悪い」と、失敗や機会損失は、常に他人や相場のせいです。

他人の失敗をあれこれ批判するわりには、自分の失敗を反省し、経験から学ぼうという気がありません。常に自分は正しいからです。

相場も読めず、空気も読めず、他人の言動をばかにしている自分が周囲から小ばかにされていることにも気づきません。また、他人の言葉尻をとらえて非難しているわりには、自分の発言はコロコロ変わります。例えば、短期売買を意図して仕掛けておきながら、相場が思惑とは逆の展開になると長期投資に変更してしまう、といった具合です。

自分で調べようとしてもしないで安易に人に聞いてばかりなのに、教えてもらっても感謝の一言もありません。学ぼうという姿勢が見られないどころか、なぜか横柄でうまくいかなかったら、悪口や文句ばかりです。当然ながら、親切な人は愛想をつかして離れていきます。

また、万年初級者のなかには「目的が違う」人もいます。例えば、売買のハラハラドキドキ感を好む人です。こうした人は、不確実なものに賭けて、当てることに「喜び」があります。

資産運用が目的ではなく、1回1回の売買に一喜一憂することが本当の目的です。事実、今も昔も競馬新聞のような「お宝銘柄××」という記事を一生懸命に書く人と読む人がいます。

運用資金がジェットコースターのように激しく増減しても、反省しません。むしろ、それくらい過激なほうが「快感」を得られます。

こうした人は、1回の売買で大きな利益を出すこともあるでしょう。しかし結局は、気がつかないうちに、それ以上に損を重ねてしまいます。トータルの結果などどうでもいいからです。

こうした「当て物」「ギャンブル」的要素は投資の一部にすぎません。ただし、こうした「スリル」だけが目的なのだとは自覚しているかぎり、私は全否定するつもりもありません。

「この資金は遊興費」と自覚して、損得関係なく、羽目をはずさないかぎり、パチンコや宝くじや公営ギャンブルを楽しむように、ほどほどに相場を楽しむことができるでしょう。世の中の動きに敏感になり、新聞やニュース、さらには人生を楽しむ効果もあります。

もともと、相場に限らず、資本主義の世界では、ビジネスにも人生にも、こうした「当て物」「ギャンブル」的な要素が含まれています。だからこそ面白いのです。

問題は、単にスリルを求めてゲーム的にめり込んでいるのに、それを資産運用と思いついでいる場合です。

大きなリスクをとれば、1週間や1カ月程度で資産が一気に2倍や3倍に増えることもあります。そうなれば自慢のひとつもしたくなるでしょう。しかし、それは一時の話で、最終的にこのやり方は、破滅に向かっていくのです。

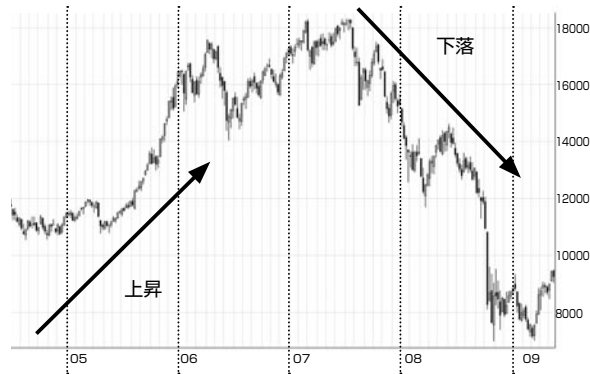
こうした人は、売買による刺激が快感となり、常に売買をしようとしています。「相場依存症」という感じで、お酒や薬物のように、売買ができないとイライラしてしまうのです。

相場の刺激にとらわれると、売買ルール（第2章で紹介します）などあつてないようなもので、感情との戦いとなります。大きなポジション（まだ決済されていない売買契約。建玉）をとっては、夜も眠れなくらい気になってしかたなく、胃もキリキリと痛くなります。ところが、それを含めて「楽しい」のです。こうなると心の病気にかかる可能性も出てきます。

**資産運用としての投資では、1ゲームの結果よりもトータルの結果のほうが、よほど重要です。そこに派手さは必要ありません。投資は商売であり、けっして楽しむことばかりではなのです。**

チャート眺めていると、川の流れるように思えるときがあります。初級者は、この川の流れてたいした下調べもなく入っては、翻弄され、のまれ、おぼれてしまうのです。

図表 1.3 日経平均チャート (単位:円)



もし、ここまで読んでカチンとこられた方がいれば、どうかご容赦ください。私もその川で、もがき苦しんだことが多々ある一人なのです。

まだ、腑に落ちるところがあるだけ中級に進む可能性があります。万年初級者はここまで読んで、それが自分にあてはまると思わないでしょう。

「最初はだれでも初級である」と理解し、「自分は初級である」と立ち位置を自覚し、謙虚な気持ちを維持することが重要なのです。

### まずは自覚から

投資で十数連勝するのは、上級者でも至難の業でしょう。しかし、投資で十数連敗するのも、同じくらい難しいといえます。

ランダムに勝ったり負けたりして興奮しながら「損大利小」を繰り返して、気づかないうちに資産を減らしていくのが一般的な負け組です。たまに勝ってしまうので、自分を初級と自覚しにくいのが相場のワナといえるでしょう。

また、先ほど述べたように、だれでも勝てるぐらい分かりやすい相場があるのも事実です。例えば、03年から05年にかけて株価が急反発したとき、ネット株取引の流行もあり、多くの「カリスマ株トレーダー本」や「億万株長者ブログ」が出現しました(図表1.3)。

いってみれば「どの銘柄を買っても値上がりしている状況」です。この時期に評価額が膨らんだ株式を担保に、さらに買いを膨らませれば、資産は一気に増えていきます。これは逆に、上級者や中級者にはできない離れ技かもしれません。

相場の風向きが変わったとき「自分は

図表 1.4 ドル円チャート (単位: 円)



初級である」と少しでも自覚していれば、うまく撤退できたでしょう。結果的に元本よりも稼いでいたのであれば、ある意味成功といえます。

しかし、多くの初級者は、もともと厳密な計画も戦略もありません。06年になって相場が強い方向性を失い、難しくなっても、なんとなく直感で、値ごろだからと買い続けます。自分は上級者だと思い込み、「今まで勝ってきたのだから、これからも勝ち続ける、相場が間違っている」と考えてしまうのです。

07年に米国の不動産バブル崩壊を契機に世界同時株安となると、そう簡単には元に戻らなくなり、買った株を売り手仕舞わずに放置する「塩漬け状態」になってしまいました。そして、一瞬にして初級者へと戻ります。というよりも、もともと初級者なのです。

これはFXも同じです。05年から07年にかけての円安で、米ドルだけでなく、ほかの通貨でも同じように右肩上がりのチャートを描きました(図表1・4)。

しかも、日本と海外に金利差がありました。そのため、外貨を買うことで、為替差益でも金利差でも儲けることができたのです。一粒で二度おいしい時期とい

えます。

これにFXの特徴であるレバレッジ(小額の資金を担保に大きな額の取引ができる)をふんだんに効かせていけば、数十万円で数億円を稼ぎ出すことも夢ではなかったかもしれませぬ。また、そういう人が存在しているのも事実です。

しかし、相場の恐さを知らない人は、結局、逃げ遅れたでしょう。実際のところ07年の中ごろから円高方向に動き出したときにも外貨を買い続けてしまい、最終的に大きな損失を出して、ブログの更新が終わった人も多いのです。